

令和2年4月11日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第14期
「京都教師塾」

第6回教育実践特別公開講座

「これからの学校教育～新学習指導要領の方向性～」

講師：学校指導課 島本 由紀 参与

最後の公開講座は、学校指導課の島本参与にお越しいただきました。100歳まで生きるであろう今の子どもたちがこれから生きる社会はどのような社会なのか、だからこそ教師は何を目指して教育していかなければならないのかについて、非常に考えさせられましたね。新学習指導要領の主な改善事項の具体もお話しくださり、最後には、よりよい先生をめざして、『学び』と『社会』をつなぐ『人づくりの職人』であってほしい」というメッセージをいただきました。

教育実践特別公開講座は全6回が終了しました。一般参加もできますので、来年度もぜひ聴きにきてください。以下は、採用前研修として講座に参加した、4月から教壇に立つ卒塾生の感想です。

- 具体的な事例を通じて本当の学びとは何かを考えさせられました。貧困の子どもが7人に1人いることにもとても驚きました。多様な子どもたちの支援ができるようアンテナをはって子どもの困りに気づき、できることをしていきたいと思いました。
- 「主体的で創造的な仕事だけを人間が担うことになる」というお話から、今後の社会の変化に合わせて教育も変わっていく必要があることを学びました。これまでの教育の良い部分を大切にしながら、どのように変化していくべきかを、自分でももっと考えていきたいと思いました。



第10回京都市教育学講座

「市民・地域とともに進める京都の教育改革～信頼される教員～」

講師：京都教師塾 中永 健史 塾長

京都市教育学講座の総まとめとして、京都教師塾 中永健史塾長にご講義いただきました。改めて今、「どんな先生になりたいか？」と問いかけられた時、そして入塾願書の自己アピール・志望理由を見返した時に、皆さんは何を思ったのでしょうか。

講義では、「教員を目指す人に求められるもの」「今、学校に求められるもの」「京都市の教育について」をお話しくだしました。第9回までの講義と繋がる部分が多かったことと思います。また、子どもと教師の関係における「やさしいけれど甘くはない。厳しいけれど冷たくはない。」という言葉が心に残った塾生も多かったようです。

分散会では、「京都教師塾での学びを通して、あなたはどんな教師になりたいですか？」をテーマに話し合いました。レポート集で第1回からの学びを振り返るなどして、皆さんの目指す教師像は今、どのように変わったのでしょうか。グループアドバイザーの先生方からは、「話している中身が深まってきた」「今までの学びを自分のものとして、大事なことを自分の言葉で語っており、大変すばらしかった」等、成長した皆さんのことを教えていただきました。レポート担当の先生方からいただいた毎回のコメントも、ぜひ今後の教育実習や教員採用試験に役立ててもらえたらと思います。本当によく頑張りましたね。これからも、感謝の気持ちを忘れることなく、謙虚に、学び続けていってください。

1 全体会

講義を通して、校種に限らず教師に求められているものは、子どもを思う心であると感じた。冒頭の質問で、教師塾でのアピール・志願理由に「アクティブラーニングをしたい、魅せる授業をしたい」といったことを書いていたが、現在は子どもを中心に、どのように生きる力を育てさせたいかを考え、実践したいという思いが出てきた。そこにあるのは、変わりゆく社会で、子どもたちが「楽しい、よかった」と思えるようになってほしいという気持ちである。他の塾生が話したように、「私が」ではなく、「子どもたちが」どうであるかということに思考が向くようになったことは、私にとって大きな変化であると感じる。また、多様性が尊重される社会にあたり、様々な人々とコミュニケーションをとること、あらゆる場面を想定し臨機応変に対応すること、その際いかに生徒の個性ときまりを尊重するかなど、教師あるいは今後社会に出て活躍する時において大切なことを学んだ。

2 分散会

分散会グループにおいて、「想定外ではいけない」という言葉に注目した。日常的に「想定外」という言葉が使われがちの中、現場において「想定外」は通用しないことを改めて感じた。特に授業では、教師の問いかけに生徒から常に想定外の答えがくる。今までは、それに対応できず流してしまうことがあったが、それでは生徒の意思を無視し、授業への無関心を引き起こしてしまう。ささいなことがやがて大きなミスにつながることを再認識した。そうならないためにも、様々な視点から物事を考え、臨機応変に対応していくことが求められる。

3 まとめ

教師塾全体の講義を通して今後行っていきたいことは2つある。1つは教材研究、もう1つは様々な人々と関わりをもつことである。前者は教師として一生行っていくべきことであり、高い専門性や経験を積むことで、生徒との関わりをより深いものにし、不測の事態にも対応できる力を育てることができる。後者は、人との関わりは自身の心を育てることにもつながると考えたからである。コミュニケーション能力はもちろんのこと、生徒を思う気持ちを育てるには、自身が様々な人々と交流する中で多様な価値観を見出すことで、生徒との交流に生かすことができると私は思う。

今回の講義内容は、今までの講座の総括の様な内容でしたね。1つ1つの講義内容を別々にとらえるのではなく、学校の中では1つに繋がっていることなので、関連づけながら考えていくことが必要になります。

全10回立派にレポートを書いてくれましたね。現場に出たとき読み返してみると初心に戻り、力づけてくれますよ。がんばってください。思いきり応援しています。

第10回分散会の様子



教員養成支援室 新規スタッフ紹介

宮下 佐知子 主任指導主事

深尾 彰 主任指導主事

岸田 蘭子 専門主事

